

武蔵野市第 5 期地域福祉計画（2018～2023 年度）＜施策体系図＞

基本施策 1. 市民の主体的な地域福祉活動の促進		
(1) 地域福祉活動の促進	1	地域社協（福祉の会）をはじめとする地域福祉関係団体への活動支援の充実
	2	共同募金事業のあり方の検討
	3	市民社協等財政援助出資団体との連携強化
	4	障害者団体やボランティア団体の活動支援の充実
(2) シニア支え合いポイント制度の取組み	5	シニア支え合いポイント制度の拡充
(3) 地域福祉コーディネーター（仮称）設置の検討	6	地域福祉コーディネーター（仮称）設置の検討
(4) 民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会の活動支援	7	民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会の活動支援の充実
(5) 心のバリアフリー事業等の推進	8	心のバリアフリー事業の推進
	9	ボランティア学習・福祉学習の推進
基本施策 2. 安心・安全な暮らしを支える自助・共助・共助の連携		
(1) 孤立防止施策の促進	10	地域包括ケアシステム（まちぐるみの支え合いの仕組みづくり）の推進
	11	見守り・孤立防止の強化
	12	ひとり暮らし高齢者の安心の確保
(2) 災害が発生しても安心して暮らし続けられるまちづくりの推進	13	安否確認及び避難支援体制づくりの推進
	14	福祉避難所の充実
(3) 権利擁護事業及び成年後見制度の利用促進	15	権利擁護事業・成年後見制度の利用の促進
	16	成年後見制度利用促進基本計画策定の検討
(4) 虐待防止の推進	17	虐待防止の推進
(5) 相談支援ネットワークの連携強化	18	健康福祉総合計画・地域リハビリテーション推進会議等による課題解決のためのネットワークの強化
	19	在宅医療・介護連携推進事業による多職種連携の強化
(6) バリアフリー化の推進	20	バリアフリー基本構想に基づくバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進
基本施策 3. 生活困窮者への支援		
(1) 生活困窮者総合相談窓口の周知と自立を支援する事業の検討	21	生活困窮者を早期に発見し支援するための広報活動及び庁内・庁外のネットワークの充実
	22	生活困窮者の経済的自立を支援する家計相談支援事業の実施の検討
	23	貧困の連鎖を防止する子どもの学習支援事業等の対象者拡充の検討
基本施策 4. 誰もがいきいきと輝けるステージづくりの促進		
(1) 市民の多様なステージ（活動、機会など）づくりの支援	24	キャリア活用による社会貢献活動の推進
	25	様々なステージ（活動、機会など）づくりの支援
基本施策 5. サービスの担い手の確保		
(1) 福祉人材の確保と育成	26	地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）の設置
	27	福祉人材の確保と育成
	28	社会福祉法人への連携・支援の充実

第 5 期地域福祉計画進捗状況一覧表

※進捗状況 ◎：令和 4 年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和 5 年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

1. 市民の主体的な地域福祉活動の促進						
(1) 地域福祉活動の促進						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
1	地域社協（福祉の会）（福祉の会）をはじめとする地域福祉関係団体への活動支援の充実		◎	改正社会福祉法の規定に応じた地域福祉団体への活動支援について検討するほか、市民主体の地域福祉活動を推進していきます。	市民社協では、市内を東部・中部・西部の 3 圏域に分け、地域専任担当職員を 1 人ずつ配置し、地域社協（福祉の会）活動支援のほか、居場所づくりや子ども食堂等の活動の立ち上げや運営相談等に対応した。	市民社協 地域支援課
2	共同募金事業のあり方の検討	新規	◎	多様な主体による募金活動への関与など、共同募金事業のあり方とさらなる寄付文化の醸成について検討を行います。	集合住宅の増加や住宅のセキュリティ強化、募金に対する市民意識の変化などを背景に、赤十字奉仕団や民生児童委員による戸別訪問中心の募金活動から、平成 30 年度の「武蔵野市共同募金事業あり方検討会」を経て、令和元年度から共同募金事業に対して何らかのかたちで協力する施設・団体等で構成された地区協力会（社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会、武蔵野市赤十字奉仕団、武蔵野市民生児童委員協議会、地域社協（福祉の会）（福祉の会）、武蔵野商工会議所、武蔵野市コミュニティ研究連絡会、武蔵野市商店会連合会、社会福祉法人武蔵野千川福祉会、多摩信用金庫、【令和 2 年度～】社会福祉法人武蔵野、特定非営利活動法人ミュー、一般社団法人武蔵野青年会議所）を中心に共同募金事業を地域全体で推進していき、戸別募金に替わる新たな募金手法を取り入れ、武蔵野市独自の新しい募金手法を検討していくこととなり、令和元年度からは、主に市内各所に募金箱を設置し、寄付を募る方法をとっている。 【赤い羽根】 【歳末たすけあい】 【H30実績】 6,296,443円 6,563,451円 【R1 実績】 984,736円 2,475,696円 【R2 実績】 801,838円 3,583,773円 【R3 実績】 818,970円 2,890,871円 【R4 実績】 640,722円 2,481,873円	市民社協 地域支援課
3	市民社協等財政援助出資団体との連携強化		◎	市民社協が策定する地域福祉活動計画と施策・事業間の連携を図ります。	市民社協では、令和元年から令和 6 年を期間とした第 4 次地域福祉活動計画を策定した。2 年間で 1 ステップとしており、地域福祉活動計画推進委員会にて、ステップごとの取り組みを振り返り、ステップ 1（令和元年度・令和 2 年度）及びステップ 2（令和 3 年度・令和 4 年度）の報告書を作成した。 推進委員会での各取り組みの振り返りに対する意見等も参考とし、市民社協では、市民社協だよりふれあいに広報委員による市民社協事業の紹介記事を毎月掲載することになった。また、地域福祉活動の担い手拡充のため、武蔵野市の地域福祉活動を知り、参加のきっかけとなるよう「地域活動はじめてセミナー」を新たに開始した。地域社協では、WEB 媒体による情報提供として、11 地域社協で Twitter を開始するなどの取り組みを進めた。 ○地域活動はじめてセミナー（R4～） 【R4 実績】 4 回	市民社協 地域支援課

※進捗状況 ◎：令和4年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和5年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

	〃		◎	各団体の自立性を尊重しながら、地域の課題解決にとって有効な組織や連携のあり方をコーディネートします。	<p>市民社協では、ボランティア団体の立ち上げ時をはじめ、活動に関する様々な相談に応じており、また、随時、他の団体と連携できるように情報提供を行っている。そのほか、各団体の活動を推進するために、ボランティア団体を対象とした助成事業を行っている。</p> <p>○「地域専任担当による団体支援件数（相談対応、つなぎ、事業参加等）」 【R2実績】389件【R3実績】488件【R4実績】278件 ※地域専任担当はH28から設置。団体支援件数を把握しているのはR2～</p> <p>○子育て支援団体等への相談対応件数 【R3実績】306件【R4実績】142件</p> <p>○地域福祉活動助成（※障がい当事者団体は4に記載） 【H30実績】21団体1,740,600円【R元実績】17団体1,698,165円【R2実績】10団体326,716円【R3実績】10団体373,103円【R4実績】10団体427,622円</p> <p>○身近な地域の居場所づくり助成 【H30実績】8団体491,780円【R元実績】9団体497,255円【R2実績】10団体317,872円【R3実績】8団体202,243円【R4実績】7団体244,758円</p> <p>○子ども・コミュニティ食堂助成 【R3実績】2団体915,000円【R4実績】2団体2,120,000円</p> <p>○子ども学習・生活支援助成 【R3実績】3団体95,095円【R4実績】4団体178,050円</p> <p>○子ども・子育て支援助成 【R3実績】5団体353,609円【R4実績】4団体344,157円</p>	市民社協 地域支援課
4	障害者団体やボランティア団体の活動支援の充実		◎	地域ボランティアの養成と新たなボランティアニーズに対応するため、市民社協と連携しながら、各団体における自主的な活動の支援を行います。	<p>市民社協では武蔵野市からの委託により障害者支援にかかわるボランティアの育成を行った。</p> <p>【H30実績】手話134人、点訳5人、失語症会話パートナー8人 【R1実績】手話137人、点訳5人、失語症会話パートナー8人 【R2実績】手話(中止)、点訳4人、失語症会話パートナー(中止)【R3実績】手話69人、点訳7人、失語症会話パートナー4人 【R4実績】手話70人、点訳7人、失語症会話パートナー4人</p> <p>また、「地域福祉活動助成事業」（令和3年度からは障害当事者団体等は「障がい者団体活動助成」に変更）により、団体の行う事業への活動費を助成した。</p> <p>【H30実績】9団体1,154,400円【R1実績】9団体1,007,593円 【R2実績】5団体462,744円【R3実績】4団体300,000円 【R4実績】5団体484,000円</p>	市民社協 地域支援課 障害者福祉課

(2) シニア支え合いポイント制度の取組み

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
5	シニア支え合いポイント制度の拡充	拡充	◎	シニア支え合いサポーターの育成及び協力施設・団体等の拡充を引き続き進めることで、市民共助の取組みをさらに推進し、介護福祉人材のすそ野の拡大を図ります。	<p>令和4年度末現在で、協力施設団体は毎年着実に増えている。毎年度シニア支え合いポイント制度推進協議会を開催し、情報の共有と課題の整理を行っている。</p> <p>【協力施設・団体数】 【新規登録者数】 【交換ポイント数】 【H30実績】19団体 97人 5,190 【R1実績】30団体 72人 5,760 【R2実績】31団体 26人 1,660 【R3実績】32団体 16人 1,690 【R4実績】32団体 22人 2,820 【R5.4.1現在】33団体（累計登録者475人）</p>	地域支援課 高齢者支援課

(3) 地域福祉コーディネーター（仮称）設置の検討

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
6	地域福祉コーディネーター（仮称）設置の検討		◎	市における各種コーディネーターなどの役割を勘案し、地域福祉コーディネーターを設置することについて検討していきます。	市民社協において令和4年度に、相談支援機関や市民と共に「地域福祉コーディネーター立ち上げ検討委員会」を設置し、武蔵野市における地域包括ケアシステムの中で市民社協の担うべき役割を検討した。その検討結果をもとに、令和5年度より地域担当業務の機能を拡充し、取り組みを進めていくこととした。	市民社協 地域支援課

(4) 民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会の活動支援

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
7	民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会の活動支援の充実		◎	民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会とそれぞれの団体の活動における課題の解決に向けて協議していきます。	<p>民生児童委員協議会、赤十字奉仕団、保護司会の各団体において事務局として会議開催、研修実施等の支援を行い、課題の解決や福祉資源の情報共有等に繋げている。また、街頭運動やイベントでの啓発活動を通じて各団体の活動内容の周知を図っている。</p> <p>【会議実績】 ○民生委員 年11回（合同民協） ○赤十字奉仕団 4年（委員会） ○保護司 年9回（分区分会） ※R2、R3は新型コロナの影響を見ながら中止又は縮小開催した。</p> <p>【団体人数（4月1日現在）】 ○民生児童委員協議会 【H30実績】95人 【R1実績】96人 【R2実績】95人 【R3実績】96人 【R4実績】98人 【R5実績】83人 ○赤十字奉仕団 【H30実績】617人 【R1実績】594人 【R2実績】579人 【R3実績】556人 【R4実績】548人 【R5実績】525人 ○保護司会 【H30実績】26人 【R1実績】24人 【R2実績】25人 【R3実績】24人 【R4実績】21人 【R5実績】23人</p>	地域支援課

(5) 心のバリアフリー事業等の推進

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
8	心のバリアフリー事業の推進		◎	認知症の理解促進及び認知症の方とその家族が暮らしやすいまちづくりのため、市民向け、事業者向けの「認知症サポーター養成講座」等の実施により、認知症理解の促進、地域の認知症高齢者見守り意識の醸成を図ります。	<p>平成18年度より、認知症理解の促進と地域における認知症高齢者見守り意識醸成のため、認知症サポーター養成講座を実施しているほか、意欲ある認知症サポーターによる地域支援活動のための環境整備等を目的とした認知症サポーターステップアップ講座を実施。また、認知症の正しい理解促進のため各コミセン単位で地域認知症講座を開催しているほか、毎年9月を「認知症を知る月間」と位置づけ、講演会などを通じて認知症理解の促進を図った。</p> <p>令和元年度は桜まつり及び青空市にて認知症普及啓発を目的としてブースを設置。新型コロナウイルス感染症への対応のため、令和2年度以降はオンライン（Zoom）による認知症サポーター養成講座も適宜開催。これまで毎年9月を「認知症を知る月間」と位置づけ、講演会などを通じて認知症理解の促進を図ってきたが、令和4年度より「健康長寿のまち武蔵野推進月間」と定め、認知症とフレイル予防の普及啓発活動を一体的に行った。</p> <p>認知症サポーター養成講座開催状況 【H30実績】58回（1,810人） 【R1実績】46回（1,737人） 【R2実績】16回（512人） 【R3実績】30回（782人） 【R4実績】27回（696人）</p> <p>認知症サポーターステップアップ講座開催状況（施設見学振り返り実績含む） 【H30実績】6回（144人） 【R1実績】6回（130人） 【R2実績】3回（74人） 【R3実績】3回（93人） 【R4実績】3回（65人）</p> <p>健康長寿のまち武蔵野推進月間 認知症講演会参加者数 【H30実績】163人 【R1実績】158人 【R2実績】—（動画講演を配信） 【R3実績】133人 【R4実績】82人</p> <p>地域認知症講座開催状況 【H30実績】4回（189人） 【R1実績】3回（128人） 【R2実績】— 【R3実績】— 【R4実績】3回（52人）</p>	高齢者支援課
	〃		◎	様々な障害を理解し、偏見や差別をなくすため、障害のある人と地域の人々が交流を図る各種イベントの開催を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方と障害当事者が交流を行える「むさしのあつたかまつり」を実行委員会形式で開催した。（令和2年度と令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止） ・令和5年2月に障害者差別解消法講演会（対面開催及び動画配信）を開催し、障害者差別解消法に関する市民理解の向上を図った。 ・障害のある方が地域で生活するために必要な支援に関する基礎知識を、地域の方々が共に学ぶことで、支援する側・される側のバリアを減らし、だれもがより暮らしやすい地域をめざすことを目的として、社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会へ委託し出前講座を実施した。 <p>【H30実績】7団体 1,106人 【R1実績】8団体 1,079人 【R2実績】5団体 603人 【R3実績】6団体 1,168人 【R4実績】7団体 776人</p>	障害者福祉課

※進捗状況 ◎：令和4年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和5年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

9	ボランティア学習・福祉学習の推進		◎	市民社協に設置されている「ふれあい福祉学習委員会」により、市内の福祉施設・事業所と協働して小・中学校の総合的学習の授業における「ふれあい福祉学習」の内容充実を支援していきます。	認知症サポーター養成講座・高齢者疑似体験などの高齢者理解に関する講義や体験を小中学校等で実施した。【H30実績】小学校6校486人・中学校2校401人【R元実績】小学校6校585人・中学校2校423人・金融機関1箇所48人【R2実績】（動画・Zoomによる実施）小学校2校309人・中学校1校135人【R3実績】（認知症サポーター養成講座のみをZoomによる実施）小学校3校339人・中学校1校143人【R4実績】（認知症サポーター養成講座のみをZoomによる実施）小学校3校200人（1校のみ対面実施）・中学校1校165人	市民社協 指導課
	〃		◎	ボランティア活動体験希望者を支援するために市民社協が実施している「夏！体験ボランティア」事業の内容充実を支援していきます。	市民社協では「夏！体験ボランティア」事業の内容を充実させるとともに、令和元年度より名称を「ボランティアキャンペーン」に変更し、春（ハルボラ）と夏（ナツボラ）の2回実施している。【H30実績】139人【R元実績】ナツボラ：167人、ハルボラ：コロナにより中止【R2実績】コロナにより中止【R3実績】ナツボラ：28人、ハルボラ：51人【R4実績】ナツボラ：61人、ハルボラ：49人	市民社協

2. 安心・安全な暮らしを支える自助・共助・共助の連携

（1）孤立防止施策の促進						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
10	地域包括ケアシステム（まちぐるみの支え合いの仕組みづくり）の推進		◎	まちぐるみで互いに支え合う地域共生社会の実現に向け、自助・共助・公助の役割分担に基づき、地域で暮らし一人ひとりがお互いに連携し、支え合う仕組みづくりを推進します。	武蔵野市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画に基づき、各種個別施策を実施し、地域包括ケアシステム（まちぐるみの支え合いの仕組みづくり）の推進を図った。	高齢者支援課
11	見守り・孤立防止の強化		◎	ひとり暮らし高齢者や、認知症高齢者の増加、生活困窮の課題に対応するために設置された、民間事業者や関係機関との協力体制である「見守り・孤立防止ネットワーク」への参加団体の拡大と連携の強化を検討していきます。	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関が通常業務の中で、異変の発見、速やかな通報、相談窓口の周知等の取組みに加え、消費被害・認知症・生活困窮者等の課題に対応するため「武蔵野市見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会」を開催し安否確認の対応報告や連携体制の強化にむけた情報交換を年に2回行っている。参加団体33団体。 高齢者だけでなく、より広い対象者に対応できるよう、令和3年度に高齢者支援課から地域支援課へ業務を移管した。 	地域支援課 高齢者支援課
12	ひとり暮らし高齢者の安心の確保		◎	「高齢者安心コール事業」の周知を強化し、ひとり暮らし高齢者に対する安心の確保の増進を図ります。	平成26年7月より、利用を希望するひとり暮らし高齢者に対し、社会福祉士等の専門職が原則週1回、決まった曜日・時間帯に電話による安否確認を行っている。 利用登録者数：【H30実績】27人【R1実績】33人【R2実績】42人【R3実績】42人【R4実績】39人	高齢者支援課

(2) 災害が発生しても安心して暮らし続けられるまちづくりの推進

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
13	安否確認及び避難支援体制づくりの推進		◎	未同意の避難行動要支援者に対して、災害時要援護者への登録を勧奨します。	<p>毎年度避難行動要支援者の名簿を更新し、名簿登載者に対して登録した旨を通知するとともに、災害時要援護者への登録案内を同封し、登録を勧奨している。</p> <p><未同意の避難行動要支援者> 【H30実績】2,231人 【R1実績】2,410人 【R2実績】2,507人 【R3実績】2,446人 【R4実績】2,507人</p> <p><災害時要援護者登録数> 【H30実績】563人 【R1実績】480人 【R2実績】447人 【R3実績】417人 【R4実績】404人</p>	地域支援課 防災課
	〃		◎	安否確認を行う役割を担う支援者の確保について、関係機関と検討していきます。	<p>災害時要援護者における支援者のマッチングを担っている地域社協（福祉の会）においても、支援者のなり手を掘り起こすことが課題と認識しており、以下のような取り組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（PTA、青少協など）比較的若い世代に声掛けをしている地域もある。 ・地域社協（福祉の会）広報誌にて募集記事掲載 ・地域社協（福祉の会）の会員による地道な勧誘 <p>また、各地域社協（福祉の会）で概ね年1回程度開催されている支援者説明会等で制度理解のフォローアップを行っている。</p>	地域支援課 防災課
	〃		◎	避難支援等関係者をはじめ、様々な関係機関との連携を通じて、未同意の避難行動要支援者及び災害時要援護者の安否確認から避難支援へと円滑に進める体制づくりを推進します。	<p>年1回開催している総合防災訓練にて避難行動要支援者対策訓練の機会を設け制度周知に努めている。（H27～、R2中止、R3は避難所開設訓練の中で縮小実施）</p> <p>各地域社協（福祉の会）で実際の災害を想定した安否確認訓練を行っているほか、支援者への制度理解を深めるため、説明会を開催している。</p> <p>また、令和3年度から避難行動要支援体制にて避難支援コーディネーターを担う市民安全パトロール隊、防災推進員向けに研修を実施しており、安否確認コーディネーターを担うシルバー人材センターへの訓練も検討中である）</p> <p>【総合防災訓練 避難行動要支援者対策訓練】 【H30実績】対象：防災推進員、市民安全パトロール隊、シルバー人材センター等 【R1実績】対象：防災推進員 【R2実績】新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止 【R3実績】避難所開設訓練の中で縮小して実施 【R4実績】対象：防災推進員</p> <p>避難支援コーディネーター訓練 【R3実績】対象：防災推進員（1回） 市民安全パトロール隊：（1回） 【R4実績】対象：防災推進員（1回）</p>	地域支援課 防災課
14	福祉避難所の充実	拡充	◎	総合防災訓練等で福祉避難所開設・運営訓練を実施するとともに、新たな福祉避難所の指定を進めていきます。	<p>高齢者施設の福祉避難所は合計17か所（令和3年度以降新規施設なし）、障害者施設の福祉避難所は1か所（令和2年度：障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野）が指定されている。</p> <p>令和4年度総合防災訓練では、関前地区の施設と連携し福祉避難所開設訓練を実施した。</p> <p>また、高齢者施設の福祉避難所の防災備蓄品については、令和3年度から大人用おむつを追加し、毎年度棚卸しを行い、市から備蓄品を補充している。</p>	高齢者支援課 障害者福祉課 防災課

(3) 権利擁護事業及び成年後見制度の利用促進

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課																		
15	権利擁護事業・成年後見制度の利用の促進		◎	福祉公社、東京都社会福祉協議会が実施する権利擁護事業を活用することで、高齢者の生活と財産の保護を図ります。	市の補助事業として、成年後見推進機関である（公財）武蔵野市福祉公社が金銭管理、財産保全等の権利擁護事業の実施、法人としての成年後見人の受任等、認知症高齢者など判断能力が十分でない方の権利を擁護し、安心して自立した地域生活が送れるよう支援している。 福祉公社では、広く市民の方に利用しやすい権利擁護事業の利用促進を図るため、事業の広報を行っており、成年後見においては、相談から申立に至るまで、継続的に準備に係る支援を行っている。 地域福祉権利擁護利用者数 【H30実績】41人 【R1実績】41人 【R2実績】40人 【R3実績】37人 【R4実績】39人 年度末時点後見受任件数 【H30実績】135人 【R1実績】129人 【R2実績】147人 【R3実績】128人 【R4実績】121人 認知能力の低下等により判断能力が低下した高齢者に対して、在宅介護・地域包括支援センターと市は連携し、権利擁護事業を活用し、本人の生活と財産の保護を図った。	地域支援課 高齢者支援課																		
	//		◎	福祉公社やNPO法人こだまネットと情報の共有、連携を図りながら、当事者やその家族などに向けた制度の普及啓発、後見業務を遂行できる人材の育成支援などを推進します。	武蔵野市成年後見制度利用促進基本計画に基づき、令和2年度、市の成年後見制度利用促進に係る中核機関として「武蔵野市成年後見利用支援センター」を設置した。市と福祉公社で運営している。 同センターでは、近隣6市との合同による市民後見人養成講座の実施、毎月の若いじたく講座、出前講座、定期的に民協、武者連等に事業内容の説明と相談窓口の周知を行っている。 同年、従来の武蔵野市福祉公社権利擁護センター関係機関等連絡協議会を発展させる形で、「武蔵野市成年後見制度地域連携ネットワーク連絡協議会」を設置した。 【年間実績】協議会会議2回、学習会・相談会開催1回、講演会1回 【障害者福祉課】 NPO法人こだまネットに親なき後講座を委託し、制度の普及啓発、相談対応及び後見業務を遂行できる人材の育成支援を推進した。（R2は講座を中止し、機関誌1,500部を関係機関へ配布。R3,4はオンラインで講座を開催。） <table border="1"> <tr> <td>親なき後講座</td> <td>講演会</td> <td>個別相談会</td> </tr> <tr> <td>【H30実績】5回（129人）</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>【R1実績】5回（121人）、1回（61人）</td> <td>—</td> <td>4回（8人）</td> </tr> <tr> <td>【R2実績】—</td> <td>機関誌の発行・配布</td> <td>2回（10人）</td> </tr> <tr> <td>【R3実績】4回（80人）</td> <td>1回（23人）※</td> <td>2回（8人）</td> </tr> <tr> <td>【R4実績】4回（49人）</td> <td>1回（17人）※</td> <td>3回（10人）</td> </tr> </table> ※講演会後日動画配信視聴者【R3】43人、【R4】52人	親なき後講座	講演会	個別相談会	【H30実績】5回（129人）	—	—	【R1実績】5回（121人）、1回（61人）	—	4回（8人）	【R2実績】—	機関誌の発行・配布	2回（10人）	【R3実績】4回（80人）	1回（23人）※	2回（8人）	【R4実績】4回（49人）	1回（17人）※	3回（10人）	地域支援課 高齢者支援課 障害者福祉課
親なき後講座	講演会	個別相談会																						
【H30実績】5回（129人）	—	—																						
【R1実績】5回（121人）、1回（61人）	—	4回（8人）																						
【R2実績】—	機関誌の発行・配布	2回（10人）																						
【R3実績】4回（80人）	1回（23人）※	2回（8人）																						
【R4実績】4回（49人）	1回（17人）※	3回（10人）																						
16	成年後見制度利用促進基本計画策定の検討	新規	◎	福祉公社等関係機関と連携し、計画策定に向けた検討を行っていきます。	令和元年度に、学識経験者、法曹等関係者、福祉従事者、金融機関代表者、公募市民、福祉公社代表者を策定委員とし、令和2～5年度を計画期間とする武蔵野市成年後見制度利用促進基本計画を策定した。	地域支援課																		

（４）虐待防止の推進						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
17	虐待防止の推進		◎	虐待に関する地域住民への理解促進を図ります。	虐待防止のパンフレットの配布や関係団体に対する虐待防止の取組の周知を通じて、理解促進に努めた。	高齢者支援課 障害者福祉課
	//		◎	在宅介護・地域包括支援センター、基幹相談支援センターが中心となり、高齢者、障害のある人などへの虐待を防止するための仕組みづくりを引き続き推進します。	平成24年10月より、高齢者及び障害者に対する虐待の早期発見並びに当該高齢者及び障害者に対する適切な援助を行うため、武蔵野市高齢者及び障害者虐待防止連絡会議を設置。 会議開催数：【H30実績】2回 【R1実績】2回 【R2実績】2回 【R3実績】2回 【R4実績】2回	高齢者支援課 障害者福祉課
（５）相談支援ネットワークの連携強化						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
18	健康福祉総合計画・地域リハビリテーション推進会議等による課題解決のためのネットワークの強化		◎	第3期健康福祉総合計画の基本理念となる地域リハビリテーションの推進のため、保健・医療・福祉・教育などの他機関・多職種の職員と連携を図ることで課題解決のネットワークの強化を図ります。	第3期健康福祉総合計画での連携を強化するため、令和元年度に「武蔵野市健康福祉実務担当者調整委員会」を設置し、庁内での推進体制を強化した。また、目指す方向性を明らかにするため、令和2年度に「健康福祉総合計画・地域リハビリテーション推進会議」を「武蔵野市健康福祉総合計画・地域共生社会推進会議」に改組した。 【生活福祉課】 市民の福祉に対するニーズは、多様化・複雑化しており、保健・医療・介護・福祉等の各分野の制度ごとのサービス提供では対応が困難な事例が増えている。令和3年度、福祉総合相談窓口を設置し、相談先がわからない市民等の対応をしてきた。相談内容に応じて関係各課が連携し、全世代に対応した重層的な相談支援のネットワークを強化してきた。相談支援を行う関係機関の連携強化のため、福祉総合相談窓口を中心に総合支援調整会議を開催。【R3実績】年9回【R4実績】年6回。	地域支援課
19	在宅医療・介護連携推進事業による多職種連携の強化		◎	平成27（2015）年度に介護保険法に位置づけられた「在宅医療・介護連携推進事業」による課題解決の取組みについて、高齢・介護分野以外にも拡充し、多職種連携のすそ野を広げ、連携強化を図ります。	医師会・歯科医師会・薬剤師会・病院等の医療関係者と在宅介護支援事業者等介護保険サービス提供事業者等の介護関係者、健康づくり事業団、在宅介護・地域包括支援センター、基幹相談支援センター等の関係機関、保健所等の行政関係機関の職員等で構成された在宅医療・介護連携推進協議会及び支部会をそれぞれ年2～4回程度開催。医療と介護の両方を必要とする高齢者の在宅生活を支える体制の構築・推進・強化を図っている。	地域支援課 健康課

※進捗状況 ◎：令和4年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和5年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

				<p>◎在宅医療・介護連携推進事業については、保健・医療・介護福祉関係者等多職種の合同研修の実施や、市民の理解を促進するための講演会等を計画的に開催していきます。</p> <p>○多職種連携推進研修部会 【H30実績】平成30年9月27日（木）「薬に関すること」78人 【R1実績】令和元年9月25日（木）「アドバンスケアプランニングについて」147人・令和元年10月10日（木）グループワーク参加者77人 【R2実績】令和2年11月13日（金）オンライン開催「もしもの時を話し合うアドバンスケアプランニング」110人 【R3実績】令和3年8月24日（火）オンライン開催「新型コロナウイルス感染症における自宅療養支援と在宅医療介護連携」291人 【R4実績】令和4年11月10日（木）オンライン開催「在宅訪問時におけるトラブル（危機管理）・ハラスメント」118人</p> <p>○普及・啓発部会 【H30実績】平成31年2月16日（土）住み慣れた地域で最期まで自分らしい暮らしを続けるために～いのちの終わりについて話し合うアドバンスケアプランニング（ACP）～178人 【R1実績】～住み慣れた地域で安心して医療と介護を受けるために～在宅への復帰を支援する「地域包括ケア病床」165人 【R2実績】映画「ピア～まちをつなぐもの～」オンライン上映 118人 【R3実績】映画「ピア～まちをつなぐもの～」「ケアニン～あなたでよかった～」オンライン上映 104人 【R4実績】ドキュメンタリー映画「人生をしまう時間」鑑賞とワークショップ 令和5年1月14日（土）22人 医療介護連携をテーマとした関連図書展示 市内図書館61冊</p>	地域支援課 健康課
--	--	--	--	---	--------------

(6) バリアフリー化の推進

通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
20	バリアフリー基本構想に基づくバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進		◎	吉祥寺駅、三鷹駅、武蔵境駅周辺地区のバリアフリー化について関連部署と連携して重点的に進めます。	令和4年3月にバリアフリー基本構想を改定し、三駅周辺及び市役所周辺を重点整備地区として位置付けた上で、令和5年3月には重点整備地区における各特定事業主が作成した特定事業計画をとりまとめた。	まちづくり推進課
	〃		◎	東京都福祉のまちづくり条例及び武蔵野市バリアフリー基本構想に基づき、事業者等への指導及び協力を通じて公共交通、道路、建築物、公園、信号機等のバリアフリー化を推進します。	<p>令和4年3月にバリアフリー基本構想を改定し、三駅周辺及び市役所周辺を重点整備地区として位置付けた上で、令和5年3月には重点整備地区における各特定事業主が作成した特定事業計画をとりまとめた。</p> <p><東京都福祉のまちづくり条例 特定施設整備届出件数> 高齢者・障害者等が円滑に利用できる都市環境整備を進めるため、不特定かつ多数の者が利用する部分を有する施設の設備主に整備基準への適合遵守義務を課し、一定以上の規模及び種類の建築物、道路公園、公共交通施設、路外駐車場などを整備する場合は、建築主に対し、着工前に届出の提出を求めている。 【H30実績】17件 【R1実績】15件 【R2実績】18件 【R3実績】23件 【R4実績】18件</p>	地域支援課 まちづくり推進課
	〃		◎	平成27（2015）年度に発行した「お出かけサポートマップ2016」改訂版発行の検討をしていきます。	高齢者、障害者等の実情や利用者の使い勝手を踏まえ、既存の情報媒体への代替の可能性を含めた検討を行った。	地域支援課 障害者福祉課

3. 生活困窮者への支援

(1) 孤立防止施策の促進						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
21	生活困窮者を早期に発見し支援するための広報活動及び庁内・庁外のネットワークの充実		◎	生活に困窮する本人や家族などに、総合相談窓口や生活困窮者自立支援事業を周知し、必要な支援につながるよう広報活動を充実させます。	市報、こころのつながり、MIAカレンダーへの掲載のほか、年1回のチラシ全戸配布を行った。また、名刺サイズの啓発カードを作成し、トイレや相談窓口へ配架するとともに、民生委員等の携帯用として配布した。	生活福祉課
	〃		◎	高齢者、障害者、子どもなどに関わる様々な相談機関や地域の団体が、生活困窮者を早期に発見し支援につなげられるよう、「生活困窮者自立支援庁内連絡会議」など、庁内・庁外の関係団体との連携を強化します。	生活困窮者自立支援庁内連絡会議により庁内各課との連携体制強化を図ったほか、見守り・孤立防止ネットワーク連絡協議会への参加を通じ庁外関係機関との連携体制強化を図った。	生活福祉課
22	生活困窮者の経済的自立を支援する家計相談支援事業の実施の検討	新規	◎	生活困窮者の家計管理能力を高め、生活困窮状態からの脱却を支援する家計相談支援事業の実施を検討します。	家計のバランスが崩れ、家計収支の改善が必要な方に対し、家計表等を用い家計を見える化し、家計管理の意欲や家計管理能力を高めるほか、滞納の解消に向けた支援を行う家計改善支援事業を平成30年度より実施。 実利用者数 【H30実績】5人 【R1実績】7人 【R2実績】4人 【R3実績】12人 【R4実績】12人	生活福祉課
23	貧困の連鎖を防止する子どもの学習支援事業等の対象者拡充の検討	拡充	◎	生活困窮世帯の貧困の連鎖を防止するため、高校進学や中退防止を含む子どもの学習支援事業の対象者の拡大等を検討します。	不登校等の課題を抱える子どもや、教室型の支援は難しい等、新たなニーズに対応するため、サポート型の学習支援教室を令和元年6月より開始。令和2年度より2教室に拡大した。各教室10人定員。 サポート型実利用者数 【R1実績】11人 【R2実績】14人 【R3実績】11人 【R4実績】13人	生活福祉課

4. 誰もがいきいきと輝けるステージづくりの促進

(1) 市民の多様なステージ（活動、機会など）づくりの支援						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
24	キャリア活用による社会貢献活動の推進		◎	老壮連合会と武蔵野生涯学習振興事業団武蔵野プレイスとの共催で実施している「老壮シニア講座」や、市民社協実施の「お父さんお帰りなさいパーティー」「おとばサロン」等へ活動支援を行い、地域福祉活動へ参加するきっかけづくりや、出番を感じることができるステージづくりを推進します。	市民社協ではお父さんお帰りなさいパーティー、おとばサロン等の事業を通して、定年を迎えた方々が地域福祉活動へ参加するきっかけづくりを支援した。 【H30実績】パーティー：一般29人 サロン：225人 【R1実績】パーティー：一般46人 サロン：114人 【R2実績】パーティー（展示のみ）：30人 サロン：122人 【R3実績】パーティー（オンラインサロン）：一般16人 サロン：160人 【R4実績】パーティー：65人 サロン：120人 ・老壮連合会と武蔵野文化生涯学習事業団武蔵野プレイス（武蔵野市教育委員会）との共催で「老壮シニア講座」を開催した。 【H30実績】10回（2,004人）【R1実績】9回（1,655人） 【R2実績】コロナ禍のため中止【R3実績】コロナ禍のため中止 【R4実績】9回（1,513人）	市民社協 生涯学習スポーツ課

※進捗状況 ◎：令和4年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和5年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

25	様々なステージ（活動、機会など）づくりの支援		◎	市及び市民社協は、地域住民と連携して、社会の中で生きがいのある充実した暮らしを送れるようなステージづくりの支援を行っていきます。	健康課では、健康づくり推進委員による健康づくり情報の発信、講座の企画などを実施したほか、健康づくり人材バンクに登録した保健師等の専門知識を有する人による講座の支援をした。 ・健康づくり推進委員活動人数：21人（東部、中央、西部に各7人） ・健康づくり人材バンク登録人数（年度末）： 【R1実績】62人 【R2実績】62人 【R3実績】59人 【R4実績】57人 市民社協では、ボランティアセンターにおいてボランティアを希望される方に活動先の紹介やボランティア講座の紹介などを行った。 ○各年度のボランティア登録者数 【H30実績】64人 【R1実績】69人 【R2実績】39人 【R3実績】48人 【R4実績】42人 ※マッチングのカウントなし ○ボランティア講座（開催回数・参加人数） 【H30実績】5講座・71人 【R1実績】5講座・31人 【R2実績】3講座・28人 【R3実績】10講座・97人 【R4実績】4講座・32人	市民社協 地域支援課 高齢者支援課 障害者福祉課 健康課
5. サービスの担い手の確保						
（1）福祉人材の確保と育成						
通し番号	個別施策	方向性	進捗状況	地域福祉計画記載内容	実績	担当課
26	地域包括ケア推進人材育成センター（仮称）の設置	新規	◎	人材の発掘・養成、質の向上、相談受付・情報提供までを一体的に行い、総合的に事業所・団体の人材確保の支援等を実施します。	平成29年度、地域包括ケア人材育成センターを設置し、運営を（公財）武蔵野市福祉公社に委託している。同センターでは、「人材・養成事業」、「研修・相談事業」、「就労支援事業」、「事業者・団体支援事業」の4つを柱として総合的な支援を一体的に行った。	地域支援課

※進捗状況 ◎：令和4年度までに「実施済」又は「実施中」 ○：令和5年度「実施予定」 △：未実施・検討段階

27	福祉人材の確保と育成		◎	<p>職種や事業所の枠を超えた階層別研修並びに日々の業務におけるスキルアップ及び多職種連携研修など福祉専門職の体系的研修の充実を図ります。</p>	<p>地域包括ケア人材育成センターにおいて、人材の発掘・養成、質の向上、相談受付や情報までの総合的な支援を一体的に行った。 【R4実績】 ◎人材・養成事業 ・介護職員初任者研修：参加9人（修了7人） ・認定ヘルパー養成研修：第1回参加5人（修了3人）、第2回参加9人（修了8人） ・認定ヘルパーフォローアップ研修：第1回参加32人、第2回参加46人 ◎研修・相談事業 ・認知症支援研修（オンライン配信）：申込72事業所303人、見守り支援ヘルパー5人修了。第1回再生194回、第2回再生176回、第3回再生173回 ・技術研修（オンライン開催）：申込17事業所42人、第1回参加25人、第2回参加35人、第3回参加20人 ・管理者・経営者向け研修（オンライン開催）：第1回参加59人、第2回参加57人 ・潜在的有資格者復帰支援事業：広報チラシ配布（市内店舗、事務所等） 問合せ・相談受付等：5件 ・相談事業：54件 ◎就職支援事業 ・介護・福祉のお仕事フェア：コロナ禍で中止 ・若者介護職支援「プロジェクト若ば」：39歳以下の介護職の集い。情報共有、情報発信、創造を目的。コロナ禍で3年度まで中止していたが、令和4年9月オンラインによるミーティングを再開。7回開催、参加者計82人 ◎事業者・団体支援事業 ・事業所の求人支援：ホームページ内での事業者紹介 ・ホームページ・ツイッターによる広報、路線バス車内広報</p> <p>武蔵野市通所介護・通所リハビリテーション事業者連絡会の研修会として、武蔵野市地域包括ケア人材育成センターとの協力開催で連続講座による研修を実施した。</p>	地域支援課 高齢者支援課
	11		◎	<p>市は、市民社協等と連携し、様々な場を活用しながら各地域において地域福祉活動を推進する人材の発掘に努めます。</p>	<p>地域の互助・共助を担い、市内13地域結成されている地域社協（福祉の会）（福祉の会）については、市民社協（ボランティアセンター武蔵野）と連携して活動内容の充実や広報の充実を図っている。シニア支え合いポイント制度や災害時要援護者対策事業等、地域福祉活動の導入となるような制度を活用し、潜在的な地域福祉活動の担い手の発掘を図っている。</p>	地域支援課 高齢者支援課 市民社協
	11		◎	<p>市は、社会福祉事業の将来を担う人材を育成するため、福祉・医療関連学校などの実習生の受入れを推進します。</p>	<p>福祉・医療関連学校などから、毎年4大学より5人の実習生を受け入れた。 【H30実績】 4大学 実習生5人 【R1実績】 4大学 実習生5人 【R2実績】 4大学 実習生5人 【R3実績】 4大学 実習生5人 【R4実績】 4大学 実習生5人 平成21年より社会福祉士実習受け入れる要件に社会福祉士実習指導員が必須となったため、今後も社会福祉事業を担う人材育成を継続して行えるよう、社会福祉士実習指導員を増やした。 【H30実績】 実習生指導員 2人 【R1実績】 実習生指導員 2人 【R2実績】 実習生指導員 2人 【R3実績】 実習生指導員 2人 【R4実績】 実習生指導員 3人</p>	地域支援課
28	社会福祉法人への連携・支援の充実	新規	◎	<p>立ち上げが予定されている「武蔵野市社会福祉法人連絡会（仮称）」に対し、各種情報提供及び研修会等の支援を行います。</p>	<p>平成30年度に設置された「武蔵野市社会福祉法人連絡会」に対し、必要に応じて情報提供等を行った。</p>	地域支援課